

読者の声



春を歩く

天白区虹の会

山田 勝子

春！春！春！

テレビに、新聞に、友人の便りの中にも春が飛びかっています。

桜がふくらみ、川辺はピンクの色に染まり、人々は皆足を止めて、美しさに見惚れています。桜道を歩くのは楽しいひと時です。春風が柔らかく、やさしく頬を撫でていきます。心はずむ春です。

我が国には、四季各々美しい花木に囲まれて、心躍る季節が有り、幸せです。今は残念ですがコロナに負けず時々は外に出ましよう。新しい空気を吸い込みましよう。健康第一のために歩きましょう。

3日過ぎれば葉桜と化す桜！短い故に美しいのかもしれないが、人間今は人生百年時代。美しくなくても、健康で楽しい毎日を通してみましよう。

さあ、また元気のため、歩いて帰ります。明日は今日より少したくさん歩きたいと思えます。



日々感謝

北区友楽会

岡田かず子

今年で88歳になります。息子たちと同居しております。実は私は今、補聴器・眼鏡・入れ歯、においもよく分からなく、夜は湯たんぽと仲良し。外出時はマスク・手袋・杖が必要です。こんな身でありながら、家の中で高さと幅30センチほどの丸い椅子に腰掛けそこね、転んでしまいました。

2日ほどはお尻が痛い状態でしたので辛抱していましたが、3日目の朝は脚が痛くて起きられませんでした。トイレに行くのが一苦労「人生は一人で生きられない」とつくづく思いましたね。

忙しい嫁に整形外科へ行きたいと強請、一緒に行くこととなりました。

グラウンド・ゴルフ体験会を開催して

港区なごやかクラブ藤前

寺野 肇

私たちクラブの悩みは新規会員の入会が少なく、特にグラウンド・ゴルフはメンバーが徐々に減っていき、ついに5人になってしまいました。雑談の中でも「若い人たちは誰かもわからんし、どこの嫁さんかもわからん」などといった話が繰り返すよく出ます。そこで町内会の掲示板と口コミを利用して幅広い世代に声をかけ、参加者を募って体験会でメンバーを増やそうということになりました。

初めての投稿

中区第三きらく会

堀田友三郎

診査の結果、「右膝に水が溜まっているから抜きましょう」と言われ、先生は水の量と「にごり」にびっくりされた様子。「週に1回注射を打ちますから、5週ほどで治ると思います。通院してください」とのこと。最後までお付き合いです。現在は元気です。

4月号(第65号)に初めて投稿した川柳が載った。我が家に届く前に知人からLINEが来た。「お元氣にご活躍、おめでとございませう」と。続いて地区の会長から「なごやかひろば」の予備があります。何部ほしいですか?」と。私の川柳が載ったことをみなさん知ってみえる。隅々まで読んでみえることに感心した。改めてこのクラブ通信が広く読まれていることに驚き、軽い気持ちで出た川柳を恥ずかしく思った。

日本人に生まれて

港区いこい中クラブ

小池 吉彦

テレビ画面で見るウクライナの惨劇、日本もかつて米国と生死を駆け血みどろの戦闘をくり広げ、8月15日に終戦を迎えた。

これでやっと故郷に帰れる。早朝列車に飛び乗った。午後5時ごろ名古屋駅で降車する。愕然とした。草木1本もなく赤茶けた瓦とトタン板のみ、ただ丸栄と松坂屋がポツンとあるのみ。東山公園より徒歩で帰路に、上社でダウン、同級生が自転車でリュックを自宅まで運んでくれる。「ただいま」声をかける。兄2人は靖国へ、出

ちで出した川柳を恥ずかしく思った。昨年10月から始めた川柳。句会もコロナ禍で開催されない月もあり、まだ5回しか出ていないが、もう少し進歩したら改めて応募してみたいと思うこの頃である。

桜の開花宣言にはチト早い3月20日、環境局南陽工場グラウンドでの開催です。参加者は皆さん初めての方ばかりで、9歳から11歳の小学生が5人、保護者の方々が4人、会員予備軍が2人、なごやか会員が7人、そしてメンバー5人の総勢23人となりました。普段の練習では聞かれない笑い声や歓声がグラウンドに響き渡りました。1ラウンド目は打数が増えてしまいましたが、2・3ラウンドではホールインワンを一人で2回入れたり、最年少の小学3年生の子も入れちゃったりという結

読者の声

御誌の編集とても感心(失礼)して拝読しています。明るくて見やすく楽しみに待っています。(東区K)

なつかしの歌「かたつむり」は、孫が小さい時に歌いました。なつかしいです!(天白区K)

毎号楽しく拝読しています。各区の活動状況や、高齢者向けの情報が知れて、とても良いです。(中村区M)

3年前までは、映画・演劇などを楽しんでいましたが、コロナが終息に向かうならば、再度映画・演劇などを楽しみに出かけたと思います。「1日・8000歩以上」を目指して、毎日元気で出かけられるように、健康にも留意したいと思います。(中村区A)

早いもので入会させていただいてから1年になります。グラウンド・ゴルフもなかなか上達しませんが、週に2回用事のない限り参加して頑張っています。今度はカローリング大会にも出席することになりました。(緑区H)

新聞でみんながいろいろ工夫しているのが知れました。(西区K)

コロナのなかでも活動いっぱい行われているのですね! 通信欄をにぎわしています! でも、旅行となるとバス...ということで実施はむずかしくて、さびしい限りです。(千種区A)

征の際「おまえも行くのかよ」と泣き顔だった母が、破顔一笑「お帰り」。遠い遠い夏の暑い日の昔の思い出。今も母の笑顔が忘れられない。
一独裁者のため、ウクライナ、何人の母親が笑顔で「お帰り」と言えるのかと、日本で生まれ、日本で育ち、90歳を過ぎし今も幸せに、日本人に生まれてよかったなと、杯を傾けながら家内と二人で、感謝、感謝。



次号テーマ

背中を押してくれたあの人

「読者のページ」ではテーマも設けています。次号のテーマは「背中を押してくれたあの人」です。人生の中で事の重大さに差はあれど、選択に迫られて迷ってしまう局面があります。そんな時、周りから背中を押してもらったことはありませんか? 一歩踏み出すことができたあの人との思い出をお聞かせください。

